

福井市社協では、学校での福祉教育を推進しています。2022年度は、福祉の講話や障がい当事者（ゲスト講師）の紹介など、延べ80校の福祉教育に関わりました。今回は、2つの小学校での取り組みを紹介します。



日新小学校 4年生

～自分たちにできることをみんなで考えよう！～

日新小学校4年生（30名）の総合的な学習の時間では、疑似体験や認知症サポーター養成講座などを通して福祉学習を進めています。

1月25日（水）には、福祉のまちづくりワークショップ「見つける！考える！福祉のまちづくり大作戦」を実施しました。はじめに、当会職員と日新地区社協の役員の方から地域で暮らす人々の困りごとや、日新地区で取り組んでいる活動を聞き、その後班に分かれて、地域の困りごとや解決策を出し合いました。

日新地区で自分たちにできることとして、「目が見えない人が道路を渡る時に声をかける」「デイホームで高齢者の方たちの集まりがあるように、妊婦さんたちの集まれる場をつくって色々と話せるようにする」など、たくさんのアイデアが出てきました。

地区社協の方からは、「特に高齢者の方は、子どもたちの声や行動で元気になっている方がたくさんいます。これからも誰かの力になりたい気持ちを大切にしてください。」というメッセージをいただきました。



東郷小学校 4年生

～目が不自由な方の暮らしを知ろう～



東郷小学校4年生（39名）の総合的な学習の時間では、目が不自由な方の生活の工夫や楽しみを知り、誰もが関わり合える社会について考えるため、1月27日（金）、清水一巳さんとの交流を行いました。

この日に向けて、子どもたちはガイドヘルプの方法を学習し、当日は、緊張しながらも役割を交代して、清水さんを3階の教室まで誘導しました。交流会は、子どもたちの歓迎の歌声でスタートし、点字の成り立ちなど調べたことを発表しました。また、清水さんからは、点字の本や音声ガイドなど、ふだん生活で使用しているものを見せてもらったり、お金の見分け方を教えてもらったりしました。子どもたちからは、「便利グッズを使いながら工夫した生活をしていることがわかった」「地域で出会ったら自分から声をかけたい」など感想を伝えながら、点字で書いたプレゼントを渡しました。